

【小学校部門 最優秀賞】

冬の宝物

奈良市立伏見小学校 3年 奥垣 佳士

毎年、はく息が白くなる時に、じいちゃんと、ほうせきのかきもちを作る。今年はじいちゃんと作れるかな？みんなで作業するのは大変だけど、ぼくはうれしくて。しんせきの人とみんなで集まって作業するのが楽しくて。みんなで作るかきもちが最高。お母さん達が、前の日からもち米を洗ってくれた。米をかまどでむして、もちをつく。「今日は何を入れる？じいちゃん。えび、青のり、ゆず、黒豆、黒砂とう？」じいちゃんと二人で決める。

じいちゃんは、もちをつく時に「あかん。あんまり水をつけたらカビがはえる。」って毎回言う。つけたもちを木のハコに入れる。またじいちゃんにおこられる。「あんまり、もちのとりこまぶしたらあかん。こなが中に入ると、かきもちがわる。」って言われた。そのまま何日かおいて、かきもちを切って、わらであんで、しょうじのへやにつるす。かきもちの切ったはしを、じいちゃんと火ばちでやいて食べる。「今年もおいしいな、じいちゃん」じいちゃんは、「作った人のごほうびや」って言ってた。じいちゃんに何回教えてもらっても、わらがあめない。手と手でわらをこすり合わせてあむけど、何でかな？じいちゃんみたいにあまれへん。じいちゃんは「大じょうぶやで」ってニコニコ笑ってる。今年もいっぱいわらであんで、しょうじのある和室にほせた。お母さんや、お姉ちゃんや親せきの人も手つだってくれた。ほして、カチカチになったらかんせい。ぼくはやいて食べたり、茶がゆに入れたり、あげせんべいにしたり、じいちゃんと作る、ほうせきのかきもちが、ぼくには大切な宝物や。お母さんは、ひなん袋に入れてた。次からはじいちゃんと作れない。もう、じいちゃんから声を出して教えてもらえへんし。はしっこを食べることもできない。でも、大じょうぶやで、ぼく、今度はじいちゃんが教えてくれたこと、みんなに教えるから。じいちゃん、ぼくの作ったかきもち何点かな。ぼくが、今年先生や!!